
海士町における疫学研究

Epidemiological study in Ama-cho

川崎医科大学認知症学

和田 健二*

はじめに

超高齢化社会を迎えたわが国では、認知症の高齢者が増加している。介入可能な認知症のリスク因子を明らかにし、これらに対する介入は認知症発症を抑制することにおいて重要である。島根県海士町における地域疫学研究において、軽度パーキンソン徴候 (mild Parkinsonian signs : MPS) に着目した研究を行った。

軽度パーキンソン徴候 (MPS) の検討

健常者と認知症との間に軽度認知障害が存在するように、運動機能においても健常者とパーキンソニズムの間には軽微な錐体外路兆候としてMPSが存在するという考え方がある。Unified Parkinson's Disease Rating Scale (UPDRS) のうち会話、表情、静止時振戦、筋強剛 (頸部、右上肢、左上肢、右下肢、左下肢)、姿勢、運動緩慢の10項目を評価 (mUPDRS) して、(1) mUPDRS rating=1が2つ以上 (2) mUPDRS rating \geq 2が1つおよび (3) mUPDRS 静止時振戦 \geq 1を基準としたMPSは60歳以上の22.1%に認められた。症状が重いMPSの高齢者では、腕時計型活動計によって定量した身体活動量は有意に減少していた。また、MPSは抑うつ気分や認知機能低下と有意に関連していた^{1) 2)}。3年間の追跡調査では、MPSを呈していた高齢者と健常高齢者を比較すると、パーキンソニズムへの進展や認知症発症率が有意に高いことが示された³⁾。MPSは軽症であっても運動症状は病的状態に基づくものであり、運動症状の悪化や認知症へ進展する可能性があり

臨床的にも有意な徴候であることが示された。MPSは、MCIと同様に可逆的な状態であり、大脳白質病変が軽度なほどパーキンソニズムへの進展は少なかった。

ベースラインで運動機能が健常であった高齢者を8年間の追跡し、新規にMPSを発症した高齢者と健常な状態のままであった高齢者のベースラインの臨床的特徴を比較し新規MPS発症の関連因子を検討した。MPSの発症因子として、運動習慣なし、運動障害の自覚、睡眠障害の自覚および高度の大脳白質病変が抽出された⁴⁾。他覚的に運動機能が健常であっても運動機能の衰えを自覚している状態 (自覚的運動機能低下) は、将来に客観的な運動機能低下につながる可能性があり、また、大脳白質病変は新規MPS発症のリスク因子であることが示唆された。

頭部MRIを施行した65歳以上688名の側脳室周囲白質病変 (Periventricular Hyperintensity : PVH) および深部白質大脳白質病変 (Deep White Matter Hyperintensity : DWMH) について生活習慣病との関連性を検討した⁵⁾。PVHは高齢、LDL-コレステロールの低値、血圧上昇、脳梗塞および飲酒なしと関連し、DWMHは高齢、1,5-アンヒドロ-D-グルシトール (1,5-AG) 低値、脳梗塞、血圧上昇および飲酒なしと関連していた。MMSEで評価した認知機能の良好因子は、低年齢、女性、DWMHが軽度およびHDL-コレステロール高値であった。Geriatric Depression Scale (GDS) による抑うつ気分の関連因子は、1,5-AG低値、LDL-コレステロール

* Kenji Wada: Department of Dementia Medicine, Kawasaki Medical School

低値、高度のPVHおよび飲酒なしであった。大脳白質病変は生活習慣病に密接に関連し、症状として認知機能や抑うつ症状発現に関連していた。

おわりに

認知機能、運動機能や抑うつ気分には密接な関係性が認められている。認知症リスク低減に向けた生活習慣病の管理や運動、睡眠を始めとする生活習慣の多面的な介入が重要である。

文献

- 1) Uemura Y, Wada-Isoe K, Nakashita S, et al. Mild parkinsonian signs in a community-dwelling elderly population sample in Japan. *J Neurol Sci.* 304:61-66, 2012.
- 2) Uemura Y, Wada-Isoe K, Nakashita S, et al. Depression and cognitive impairment in patients

with mild parkinsonian signs. *Acta Neurol Scand.* 128: 153-159, 2013.

- 3) Wada-Isoe K, Tanaka K, Uemura Y, et al. Longitudinal course of mild parkinsonian signs in elderly people: A population-based study in Japan. *J Neurol Sci.* 362: 7-13, 2016.
- 4) Kishi M, Kenji Wada-Isoe, Hanajima R et al. Predictors for Incident Mild Parkinsonian Signs in Older Japanese. *Yonago Acta Medica.* 63: 1-7, 2020
- 5) Yamawaki M, Wada-Isoe K, Yamamoto M, et al. Association of cerebral white matter lesions with cognitive function and mood in Japanese elderly people: a population-based study. *Brain Behav.* 5: e00315. 2015

この論文は、2024年7月27日（土）第37回老年期認知症研究会で発表された論文です。